

ペルー共和国 (首都 リマ) .....



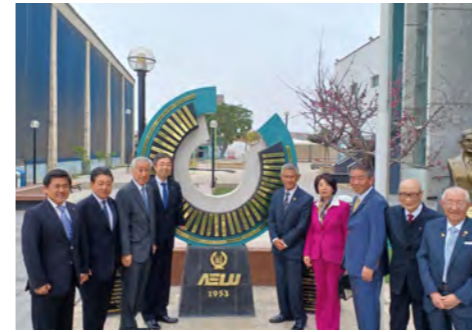
- 面積 約129万平方キロメートル (日本の約3.4倍)
- 人口 約3,297万人 (2020年)
- 言語 スペイン語
- 日本との時差 マイナス14時間



# 町長伝言板「海外見聞録」

去る十一月六日から十四日まで、熊本県人ペルー移住一二〇周年記念式典出席のため、片山裕治町議会議員及び職員と共にペルー共和国の首都・リマ市を訪問しました。五年前の一一五周年式典及び四年前の熊本県人会創立一〇〇周年式典に続き、三回目の訪問となりました。

羽田空港からヒューストン空港を経由し、リマ空港に着くまで約一日半の空の旅はさすがに疲れました。翌日の午前、木村熊本県副知事及び淵上熊本県議会議長一行と合流し、日系人で建設した体育施設ラ・ウニオン設立七〇周年式典に参加いたしました。秋篠宮佳子内親王も来賓としてご臨席されており、お会いすることができ感激いたしました。



▲体育施設ラ・ウニオン設立70周年式典

その後、日秘協会会長をはじめ、熊本県人会役員を表敬訪問いたしました。三回目の訪問のため、面識のある方が多数おられ話も弾み、親睦を深めることができました。また、日秘会館内に故平岡カルロス千代照氏の胸像が建立されることとなり、その除幕式にも参列いたしました。同じ胸像が竜北西部小児童保育所にも設置されており、世界に二つだけの胸像が、氷川町とペルー熊本県人会との友好のシンボルになることでしょう。



▲故平岡カルロス千代照氏の胸像除幕式

四日目は、在ペルー日本国大使館を表敬訪問、山元特命全権大使と面会し、最近のペルー情勢やペルー社会における日系移民の活躍についてお聞きするとともに、ペルーからの留学生の受入

メキシコ県人会役員を招いての交流会に参加し、ペルーの伝統的な料理パチャマンカを食しました。



▲肉や芋などをバナナやヤシの葉で包み、焼き石とともに土中に埋め蒸し上げて作るパチャマンカ

その席で、木村熊本県副知事より故平岡カルロス千代照氏の生涯を教育の現場で熊本の子どもたちに伝えていきたいとの発言があり、私からも今後、熊本県と協力してその方法を模索したい旨を伝えてまいりました。

それぞれの交流を通して、県人会の皆様のおふろさと熊本への望郷の想いの深さを改めて感じ、故郷を離れて暮らす地元出身の皆様が誇れる町を築いていかなければならないと決意を新たにする旅となりました。

れ拡充や技能研修制度の確立等について懇談いたしました。その後、平岡ルイス熊本県人会名誉会長が経営されている電気店を視察、多くのお客様が来店されており、その賑わいに一同驚きました。



▲平岡名誉会長経営の企業訪問

五日目は、多国籍の児童が通うサンホセ・デ・モンテリコ小学校を視察、充実した教育環境と子どもたちの笑顔に触れることができました。くまモンがサプライズで登場すると騒然となり、くまモン人気の高さを知りました。夕方、今回の訪問の目的である熊本県人ペルー移住一二〇周年記念式典に参加しました。式典会場はリマ市内のゴルフ場の一角に特設会場を設け、式典には、前日お会いした山元在ペルー日本

## 故・平岡カルロス千代照氏に 氷川町名誉町民称号と町民栄誉賞を授与

故・平岡カルロス千代照氏は、南鹿野地区出身。1930年代にペルー共和国に移住後、現地経済界や地方行政などさまざまな分野で活躍し、同国ワンタ市長やペルー中央日本人協会会長など多くの要職を務めました。郷土愛にもあふれ、母校竜北西部小学校へのピアノの寄贈、日系人によるリマ市への日本庭園の寄贈への尽力など郷土と同国との交流発展への功績も多岐に渡っています。

